

# 「共生社会をつくる」 ということ

～誰もが自己を肯定できる社会になるために  
私たちにできることは～

■日時:2020年11月26日(木) 10:00～16:00 (9:30～9:40までに入室してください)

■会場:お好きな場所で(ZOOM開催)

■参加費:無料(通信費等は自己負担となります)

■申込方法:Zoomの案内メールを受信するメールアドレスから申込みください。

【申込宛先】E-mail:[syogaks@pref.miyagi.lg.jp](mailto:syogaks@pref.miyagi.lg.jp)

【件名】11月26日コンファレンス申込み

【本文】1.名前 2.電話番号 3.所属(特に所属がない方は「一般」)

4.経験年数(社会教育の仕事に携わったことのある方のみ)

5.研修会当日の使用端末

(1台の端末で複数名で参加される場合は、参加される方全員の情報を記載の上、申込みください。)

■申込メ切:11月20日(金)16:00

■その他:※障がいなどの理由により支援の必要な方は、ご相談ください。

※Zoomを初めて体験される方に事前接続確認の時間を用意します。

[日程]11/19(木)、11/24(火) 15:30～16:00

11/24(火) 19:00～19:30

(詳細は後日、申し込みメールへの返信でご連絡いたします。)

文科省  
共生社会コンファレンス HP

■問合せ:宮城県教育庁生涯学習課社会教育支援班

TEL:022-211-3653

Mail:[syogaks@pref.miyagi.lg.jp](mailto:syogaks@pref.miyagi.lg.jp)



様々に困難を背負って始まる人生もあります。困難が少なく始まった人生であっても、その途上では、様々に困難や喪失や減退が現れます。長寿は、必ずしも幸せとは結びつくとは限りません。その過程で誰もが、生きる意味を見失ったり、人としての尊厳が守られない事態に陥ったりする可能性があります。

しかしそこから、成長を果たす方法、自己を肯定できるための知恵とはどのようなものなのか。そうした知恵につながることをはじめ、生涯発達をめざす意志への後押し、励ましが多彩に用意されている社会（共生社会）は、いかにすれば導きだせるのか。

これらの問いを深めるべく、この研修では、「認知症とともに生きる」人々が、そこから自己を肯定できるようになるための知恵や、孤独死が深刻な社会問題となるなか、人生の「終(しま)い」を孤立せずに迎えられる条件づくりなどの諸実践に学びながら、「共生社会」を「みんな」で創り上げる学習と実践とはどのようなものなのか、そこにおいて社会教育にできることは何か、を考え合います。

## Program

9:30～入室

9:45～お互いを知る（グループワーク）

10:00～開会行事

10:15～基調講演

「地域の健康課題と住民の学習」

11:25～休憩

11:30～グループワークⅠ

12:00～休憩（動画上映）

13:00～話題提供

うらやす・おれんじドア

NPO 法人ひなたぼっこ

14:40～グループワークⅡ

15:05～休憩

15:10～シンポジウム

15:40～グループワークⅢ

15:55～閉会行事

16:00 終了

基調講演講師：松下 拓氏

（元松川町（長野県）社会教育主事）

コメンテーター：細山 俊男氏

（社会教育・生涯学習研究所 所長）

コーディネーター：石井山 竜平氏

（東北大学）

## 話題提供

おれんじドア

（宮城の認知症をともに考える会）

特別養護老人ホームうらやす

（名取市）

特定非営利活動法人

ホームひなたぼっこ（岩沼市）